Coopers Brewery、2026年度のビール販売量が8,250万リットルに

樽生ビールの販売は7.4%増となり、包装ビールの1.7%増を上回った。オーストラリアの飲食店で需要が強まっていることを示している

2026年11月9日（月）



Food & Drink Businessが11月9日月曜日に報じた数字によると、Coopers Breweryの2026年度のビール販売量は8,250万リットルで、前年の8,060万リットルから増加した。190万リットル、率にして2.36%の増加となり、オーストラリア市場では包装ビールよりも樽生ビールの販売に勢いがあったことを示している。

アデレードを拠点とする同社が公表したビール販売量には、ノンアルコールビールは含まれていない。Food & Drink BusinessはCoopersの情報として、FY26の樽生ビール販売が7.4%増加したと報じた。FY25の伸び率は5.9%だった。つまり、樽生チャネルの成長率は前年から1.5ポイント加速した。

包装ビールも増加したが、そのペースはより緩やかだった。Food & Drink Businessによると、FY26の包装ビール販売量は1.7%増え、ビール販売全体の87%を占めた。同社は樽生と包装の各形態について、比較可能なリットル数を公表していないため、各チャネルで年間に何リットル増加したかを正確に把握できるデータはない。

内訳は明らかでないものの、数字は樽生ビールが成長の主な原動力だったことを示している。樽生の販売はバー、パブ、レストランなどの飲食店と密接に結びついている一方、包装ビールは小売や家庭での消費の影響をより強く受ける。樽生の伸びが7.4%、包装ビールが1.7%だったことから、年間を通じて業務用チャネルの需要が包装形態よりも速いペースで回復したことがうかがえる。

Coopersはオーストラリアでエール、ラガー、スタウトのほか、関連ブランドを販売している。公表されたビール販売量を見ると、規模では包装商品が引き続き同社の中核事業だが、最新の結果では樽生の販売がより速いペースで伸びている。流通業者や飲食店にとって、樽生の成長は生産計画や物流、パブやバーを通じて販売される商品の構成と、酒販店やスーパーマーケットを通じて販売される商品の構成に影響するため、重要な動向だ。

公表されたデータは販売量と成長率に限られている。比較可能なビール売上高は明らかにされておらず、販売量の増加と、価格、商品構成、インフレに関連する影響とを切り分けることはできない。また、記事はFY26とFY25の正確な開始日と終了日を示さず、比較対象がそれぞれの会計年度であることのみを記している。

数値の二次情報源はFood & Drink Businessで、同誌はCoopersの情報としてこれらの数字を伝えた。報道で言及された企業声明は、独自に検証できる形では全面的に入手できなかった。したがって、これらの数字が示すのは、11月の販売ではなく、FY26の年間ビール販売量として報告された実績だ。

今回の実績により、Coopersはビール販売量を前年から伸ばし、なかでも樽生が最も明確な増加を示した。包装ビールが引き続き同社の生産量の大半を占める一方、樽生の伸びがより大きかったことは、会計年度を通じてオーストラリアの飲食店チャネルが活発化したことを示している。